



『一緒に過ごした日々』

春の足音が少しずつ近づいてきました。3月16日は卒園式です。今年も18人の子どもたちが、新田保育園を巣立っていきます。玄関前にぞう組の子どもたちの写真を飾ります。生まれたころの写真と現在の写真です。見ているだけで笑顔になり、子どもたちとの思い出が蘇ります。

卒園文集のあとがきに、ぞう組担任の金田が思いを綴っています。

私は、ぞう組になって発見したことがいくつもあります。まずは、「こんなふうになりたい！なるのだ！」という本気の目標を持つと、あんなにも力が湧いてきてグングンと成長していくのだということ。取り組みの度に目標を掲げてきたぞう組。絶対に疲れているはずなのに「もうっかい！」「まだまだ！」と気持ちを奮い立たせていました。そんなみんなに私がパワーをもらっていました。気持ちってすごいなと思いました。また、自分がこんなに感情的になることも、みんなと過ごして初めて知りました。振り返ってみるとぞう組のみんなには、誰よりもいろんな表情を見せてきたし、思った事を包み隠さず話してきました。これまでの人生でこんなにも心の底から怒ったり悔しかったり悲しかったり泣いたり困ったことはありませんでした。きっと心の中で、どんな自分を見せても大丈夫だと信じていたからだと思います。そのくらいみんなのことが大好きで私の大切な仲間です。だから、本当は私も一緒に小学校へ行きたくてたまりません。でもそれ以上に、新田保育園にいる間にこんなにも大きくなったみんなが、新しい世界へ羽ばたく姿がとても楽しみです。これからどのようなことに興味を持つのだろうか。何を好きになるのだろうか。どのような経験をするのだろうか。今までのように一緒に体験したり隣で共感することができないのは寂しいけれど、その分会った時にこれまで以上にたくさん驚くのだろうか。それを楽しみに私も頑張ります。(中略) 離れても一度仲間になったら、この先もずっと仲間です。

12月に行なわれた冬まつりのぶち合わせ太鼓で、3人が交代する回転のところが入れ替わるというハプニングが起きました。最後まで叩き切ったのですが、冬まつり後の話し合いで、「いつもがんばってさ、いちばんだいこやったのに、いちばんだいこ (いつも叩いている子が) みせられなかったのはかわいそうとおもった」とBくん。「そうだよね」と、他の子どもたちもうなずきます。ずっと一緒に取り組んできたから友だちの頑張りや姿を見ていたのでしょう。入れ替わったからこそ、友だちのすごさを知ったのかもしれませんが。そこからみんなで、たくさん話し合い『もう一度みんなでぶち合わせ太鼓を叩こう』と決めました。

迎えた『ぶち合わせ太鼓披露の日』今までとは違う雰囲気。真剣な表情と緊張感。それらを味方につけた太鼓の音。やったー！みんなすごい (大興奮) そして心から、ほっとしました。

りす組の「ぞうぐみになったらぜったいにたいこやる」という言葉が全てを物語っています。次の日も朝から「たいこ、やろう！」とぞう組の子どもたち。この体験を忘れないでほしいなあ。文責 濱本昌子
～お知らせ～藤原夏穂保育士は、3月をもって退職いたします。

Calendar table for March with dates 1-31 and activities like '誕生会', '卒園式', '健康診断', '新田学園ランド', '春分の日', '卒園式準備', '卒園式', '令和6年度ぞう組合宿下見', '幼児組遠足', '新年度準備週間', '運営方針会議'.